大中小　文字サイズ

**桐生が優勝、決勝は１０秒１０**

「陸上・日本学生個人選手権・第２日」（１１日、ＢＭＷスタジアム平塚）

　男子１００メートル決勝が行われ、日本人初の９秒台の期待が懸かった桐生祥秀（２０）＝東洋大＝は、１０秒１０（向かい風０・３メートル）で優勝した。９８年アジア大会で伊東浩司氏がマークした１０秒００の日本記録には及ばなかった。

　リオデジャネイロ五輪代表最終選考会の日本選手権（２４日開幕・瑞穂）に向けて、調整のため出場した桐生だったが、予選から余裕を持った走りで１０秒１７（追い風１・２メートル）の好タイムをマーク。準決勝ではリオデジャネイロ五輪派遣設定記録を突破し、洛南高時代の１３年４月の織田記念国際でマークした日本歴代２位で自己ベストタイ記録となる１０秒０１（追い風１・８メートル）を出し、観衆をどよめかせた。ただ、９秒台まで再びあと一歩という記録に関係者に「ショックです」と苦笑いで話していた。

　桐生は優勝後、「正直、（自己ベストの）１０秒０１がもう１回というのは…飽きた。どうせなら、もうちょっと速いタイムが出てほしかった。自己ベストが出たことで調子は上がっている。（６月下旬の）日本選手権では絶対に優勝したい」などと語った。